

# 令和6年用ねぎ病害虫防除基準

発行：J A さがえ西村山  
さがえ西村山野菜振興協議会

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

防除時期	対象病害虫名	RAC	発生時期									防除方法 〔収穫前使用日数/使用回数〕	注意事項	
			3	4	5	6	7	8	9	10	11			
定植前	タネバエ	1B	←————→									ダイアジノン粒剤 3を10a当たり6kg〔は種時、又は植付時/2回以内〕土壌混和する。	1. 連作を避ける。 2. 未熟堆肥を施用しない。	
育苗期	苗立枯病	M5										ダコニール1000 500倍 (20ml/10ℓ) を〔出芽揃い後出芽3日後から10日後まで〕1回1㎡当たり500mlを土壌灌注する。		
育苗期後半	タネバエ ネギアザミウマ ネギハモグリバエ ネキリムシ類	28,4A										ジュリポフロアブル200倍 (50ml/10ℓ)〔育苗期後半～定植当日/1回〕をセル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ)当たり0.5ℓ灌注する。		
定植時	ネキリムシ類	1B 3A	←————→									カルホス微粒剤F <sup>®</sup> を10a当たり6kg〔植付時/1回〕土壌表面散布土壌混和する。 フォース粒剤 <sup>®</sup> を10a当たり9kg〔定植時/1回〕作土土壌混和する。	1. 連作を避ける。 2. フォース粒剤はネダニ類にも登録がる。	
	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ (アザミウマ類) (ハモグリバエ類)	4A 4A										スタークル粒剤 10a当たり6kg〔定植時/1回〕 株元散布 ベストガード粒剤 10a当たり6kg〔定植時/1回〕 植溝処理土壌混和	1. アザミウマ類の発生のみられるところでは、スタークル顆粒水溶剤2,000倍〔3日前まで/2回以内〕、又はモスピラン顆粒水溶剤 <sup>®</sup> 2,000倍〔7日前まで/3回以内〕を散布してもよい。 2. プレオフロアブルはネギアザミウマにも登録がある。 3. ハチハチ乳剤 <sup>®</sup> は、さび病、べと病、シロイチモジヨトウにも登録がある。 4. ヨーバルフロアブル、アニキ乳剤はシロイチモジヨトウにも登録がある。 5. アニキ乳剤、アグリメックは同一成分とみなし、抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける。 6. コルト顆粒水和剤は、ミツバチの活動に影響を及ぼす恐れがあるので、ミツバチ放飼期間中は使用を避ける。 7. 合成ピレスロイド剤(アディオン乳剤、アグロスリン乳剤 <sup>®</sup> 、トレボン乳剤)は抵抗性害虫出現防止のため総使用回数は2回以内とする。	
生	ネギコガ アザミウマ類	3A 3A 21A,39 28	←————→ 条件：高温・乾燥時									アディオン乳剤 3,000倍 (3.3ml/10ℓ)〔7日前まで/3回以内〕 アグロスリン乳剤 <sup>®</sup> 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔7日前まで/5回以内〕 ハチハチ乳剤 <sup>®</sup> 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔7日前まで/2回以内〕 ヨーバルフロアブル 2,500倍 (4ml/10ℓ)〔3日前まで/3回以内〕	のいずれかを10a当たり100～300ℓ散布する。	1. アザミウマ類の発生のみられるところでは、スタークル顆粒水溶剤2,000倍〔3日前まで/2回以内〕、又はモスピラン顆粒水溶剤 <sup>®</sup> 2,000倍〔7日前まで/3回以内〕を散布してもよい。 2. プレオフロアブルはネギアザミウマにも登録がある。 3. ハチハチ乳剤 <sup>®</sup> は、さび病、べと病、シロイチモジヨトウにも登録がある。 4. ヨーバルフロアブル、アニキ乳剤はシロイチモジヨトウにも登録がある。 5. アニキ乳剤、アグリメックは同一成分とみなし、抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける。 6. コルト顆粒水和剤は、ミツバチの活動に影響を及ぼす恐れがあるので、ミツバチ放飼期間中は使用を避ける。 7. 合成ピレスロイド剤(アディオン乳剤、アグロスリン乳剤 <sup>®</sup> 、トレボン乳剤)は抵抗性害虫出現防止のため総使用回数は2回以内とする。
	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ (アザミウマ類) (ハモグリバエ類)	4A 5 6 9B 30 4A 4A										ダントツ水溶剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔3日前まで/4回以内〕 ディアナSC 5,000倍 (2ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 アグリメック <sup>®</sup> 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔3日前まで/3回以内〕 コルト顆粒水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔3日前まで/3回以内〕 グレーシア乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔7日前まで/2回以内〕 ベストガード粒剤を6kg/10a〔前日まで/3回以内〕を株元処理する。 スタークル粒剤を6kg/10a〔3日前まで/2回以内〕を株元散布する。	のいずれかを10a当たり100～300ℓ散布する。	
育	シロイチモジヨトウ	3A UN 28	←————→ 条件：高温・乾燥時									アディオン乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔7日前まで/3回以内〕 プレオフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔3日前まで/4回以内〕 フェニックス顆粒水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔7日前まで/3回以内〕	のいずれかを10a当たり100～300ℓ散布する。	1. 肥切れしないように注意する。 2. アミスター20フロアブルは、黒斑病、べと病にも登録がある。 3. ベンコゼブ水和剤は、黒斑病、さび病にも登録がある。 4. メジャーフロアブルは、葉枯病、白絹病、べと病にも登録がある。 5. アミスター20フロアブル、メジャーフロアブルは、浸透性を高める効果のある展着剤を混用すると葉害を生じる場合があるので注意する。 6. アミスター20フロアブルは、りんごに葉害があるので、飛散しないように注意する。 7. アミスター20フロアブル、メジャーフロアブルは、葉先に葉害が発生する場合があるので、幼苗期には使用しない。 8. アミスター20フロアブル、メジャーフロアブルは、同一成分とみなし耐性菌出現防止のため総使用回数は2回以内とする。 9. アフェットフロアブルは、さび病、白絹病、葉枯病、小菌核腐敗病にも登録がある。 10. EBI剤は耐性菌出現防止のため、総使用回数は2回以内とする。
	黒斑病	19 2 11 7	←————→ 条件：24～27℃・肥切れ、雨晴れ交互									ポリオキシシンAL水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔14日前まで/3回以内〕 ロブラール水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔14日前まで/3回以内〕 メジャーフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 アフェットフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕	のいずれかを10a当たり100～300ℓ散布する。	
期	さび病〔空気感染〕	NC 3 11 11	←————→ (冷夏) 条件：9～18℃・肥切れ、草勢衰え									カリグリーン 800倍 (12.5g/10ℓ)〔前日まで/—〕 ラー乳剤 4,000倍 (2.5ml/10ℓ)〔14日前まで/3回以内〕 メジャーフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 アミスター20フロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔3日前まで/4回以内〕	のいずれかを10a当たり150～300ℓ散布する。	1. イネ科・マメ科作物との輪作をおこなう。 2. 排水対策を徹底する。 3. ジーファイン水和剤は、少量の水で希釈すると発泡するので、必ず所定量の水に少量ずつ攪拌しながら加え調整する。
	べと病〔空気感染〕	M5 P7 M1 3,UN,M3 40,M1 M5,40 21 UN,M3	←————→ 条件：15～20℃・多肥、多湿、風通し不良									ダコニール1000 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔14日前まで/3回以内〕 アリエッティ水和剤 800倍 (12.5g/10ℓ)〔3日前まで/3回以内〕 ヨネボン水和剤 500倍 (20g/10ℓ)〔7日前まで/4回以内〕 テーク水和剤 600倍 (16.6g/10ℓ)〔14日前まで/3回以内〕 フェスティバルC水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔14日前まで/3回以内〕 プロポーズ顆粒水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔14日前まで/3回以内〕 ランマンフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔3日前まで/4回以内〕 ベンコゼブ水和剤 600倍 (16.6g/10ℓ)〔14日前まで/3回以内〕	のいずれかを10a当たり150～300ℓ散布する。	
期	軟腐病〔土壌(細菌)多犯・傷口〕	P2 M1 24,M1 31 31,M1 31,24	←————→ 条件：25～30℃・排水不良、窒素過多									オリゼメート粒剤 6kg/10a〔30日前まで/2回以内〕を土寄せ時に株元散布する。 クプロシールド 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔—/—〕 カスミンボルドー 1,000倍 (10g/10ℓ)〔14日前まで/2回以内〕 スターナ水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔7日前まで/3回以内〕 ナレート水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔14日前まで/3回以内〕 カセット水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔14日前まで/2回以内〕	のいずれかを10a当たり150～300ℓ散布する。	1. 排水対策を徹底する。 2. フロンサイド粉剤は、白絹病にも登録がある。
	白絹病〔土壌(菌核)多犯・傷口〕	14 2 7	←————→ 条件：25～30℃・土寄せ後、低いPH									リゾレックス粉剤 20kg/10a〔14日前まで/3回以内〕を土寄せ前に株元散布する。 ロブラール水和剤 500倍 (20g/10ℓ)〔14日前まで/3回以内〕1ℓ/㎡株元灌注する。 カナメフロアブル <sup>®</sup> 4,000倍 (2.5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕10a当たり100～300ℓ株元散布する。		
期	小菌核腐敗病(胴割れ症)〔土壌(菌核)空気感染〕	2 29	←————→ 条件：14℃前後・冷夏後の秋の長雨時									ロブラール水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔14日前まで/3回以内〕を10a当たり100～300ℓ散布する。 フロンサイド粉剤を15kg/10a〔収穫21日前まで/2回以内〕を土寄せ時株元散布する。	1. 排水対策を徹底する。 2. フロンサイド粉剤は、白絹病にも登録がある。	

## 除草剤使用基準

	薬剤名	RAC	10a当り薬量/散布量	使用時期	使用方法	使用回数	適用雑草	特 性
土 壌 処 理 剤	ゴーゴーサン乳剤	3	200～300ml/70～100ℓ	定植後(雑草発生前) (定植10日後まで)	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・土壌が過湿の場合は使用しない。 ・キク科雑草およびツクサには効果が劣る。
	トレファノサイド乳剤	3	200～300ml/100ℓ	定植後雑草発生前 (収穫30日前まで)	全面土壌散布	2回以内	一年生雑草	・トンネル・ハウス栽培ではガス化による葉害のおそれがあるので使用しない。 ・ツクサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。
理 剤	クレマート乳剤	3	200～400ml/100～150ℓ	定植活着後雑草発生前 (定植10日後まで)	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・ガス化しない
	ロックス	5	100～150g/70～150ℓ 75～150g/100ℓ	定植後(雑草発生前) (但し、収穫30日前まで) 定植30日後以降中耕培土後 (雑草発生揃期)(但し、収穫30日前まで)	畦間土壌散布 雑草茎葉散布 又は全面散布	1回	一年生雑草 一年生広葉雑草	・イネ科雑草多い場合、他剤との混和が望ましい。 ・砂質土壌では使用しない。
茎 葉 処 理 剤	コンボラル	3	4～6kg	定植直後	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・ツクサ、キク科雑草には効果がない(トレファノサイド+ゴーゴーサン混合剤)
	ナブ乳剤	1	150～200ml/100ℓ	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)(収穫30日前まで)	雑草茎葉散布 又は全面散布	1回	一年生イネ科雑草	・遅効性で枯死するまで7～10日必要。イネ科作物に葉害飛散に注意。 ・スズメノカタビラには効果がない。
	バスタ液剤	10	300～500ml/100～150ℓ	雑草生育期：定植前または畦間処理(収穫前日まで)	雑草茎葉散布	2回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い
ラウンドアップマックスロード	9	200～500ml/50～100ℓ	雑草生育期：定植後畦間処理(収穫30日前まで)	雑草茎葉散布	3回以内	一年生雑草	・非選択性 ・吸収移行型除草剤	

農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。

成分名	RAC	農薬名	使用回数	同一成分総使用回数	備 考	成分名	RAC	農薬名	使用回数	同一成分総使用回数	備 考
マンゼブ	UN,M3	ベンコゼブ水和剤	3回以内	3回以内		ペンディメタリン	3	コンボラル	1回	1回	
	3,UN,M3	テーク水和剤	3回以内					ゴーゴーサン乳剤30	1回		
トリフルラリン	3	トレファノサイド乳剤	2回以内	2回以内		オキシリニック酸	31	スターナ水和剤	3回以内	3回以内	
	3	コンボラル	1回					ナレート水和剤	3回以内		
ジノテフラン	4A	スタークル粒剤	定植時、は種時1回 生育期2回以内	4回以内	は種時の土壌混和、育苗トレイ灌注及び定植時合計1回以内、生育期灌注1回、散布及び株元散布は2回以内	TPN	M5 M5,40	ダコニール1000	3回以内	4回以内	土壌灌注は1回以内、散布は3回以内
		スタークル顆粒水溶剤	2回以内					プロポーズ顆粒水和剤	3回以内		